

作成日：西暦 2026 年 2 月 10 日

2022 年 1 月から 2024 年 12 月に産業医科大学病院眼科のロービジョン外来を受診し
拡大読書器の紹介もしくは選定を受けた患者さんおよびご家族へのお知らせ

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた情報の記録に基づき実施する研究です。このような研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（令和 3 年 3 月 23 日制定 令和 3 年 6 月 30 日施行）」により、対象となる患者さんのお一人おひとりから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開するとともに、参加拒否の機会を保障することとされています。この研究に関するお問い合わせ、また、ご自身の診療情報が利用されることを了解されない場合は、以下の問い合わせ先にご連絡ください。利用の拒否を申し出られても何ら不利益を被ることはありません。

1. 研究課題名

ロービジョン外来における拡大読書器選定の実態調査

2. 研究期間

研究機関の長の許可日～2028 年 6 月 30 日

3. 研究機関

産業医科大学

4. 研究責任者

産業医科大学医学部眼科学 講師 松下 五佳

5. 研究の目的と意義

この研究は、誠明会永田眼科 医師 植木麻理を研究代表者とする多機関共同研究です。

視覚障害者にとって拡大読書器（以下、読書器）は文字情報等を得るために非常に有益な補助具です。近年、読書器は据え置き型、中間型、携帯型などの多くの種類が発売されており、機能も白黒反転だけでなく、タッチパネル、読み上げ機能が搭載されたものなど、多くの種類があります。しかし、当事者の視機能の程度や状態、用途によって必要とされる拡大読書器の種類・機能は異なると予想されます。読書器は障害者総合支援法において、視覚障害者の「日常生活用具」として認められており、購入時には自治体から補助金が給付されますが、購入した読書器が使用困難であったり、機能が期待と異なっていたため、実際には十分に利用されていない事例がみられます。

過去の報告においても拡大読書器の継続使用率は 50～85%程度であると報告されています。患者さんにとって購入した拡大読書器がニーズに合わない等の理由により使用されない場合には費用の無駄になります。視覚障害者の方の保有視機能の程度や用途目的別に、どのような拡大読書器の形態や機能が望まれたか、また、日常生活用具として申請されたあるいは購入して使用された読書器について調査し、解析することは適正な拡大読書器を選定する際に有用と考えられますが、現時点でそのような報告はありません。

[目的]

ロービジョン外来にて拡大読書器を紹介した視覚障害者の割合、その患者さんの保有視機能、使用目的、拡大読書器への期待、購入や使用の実態を調査することです。

[意義]

適正な拡大読書器の選定のために有用な情報になることが期待され、公費の有効活用にもつながると考えられます。

6. 研究の方法

当院眼科のロービジョン外来を受診した際の診療録より、後ろ向きで以下の項目について調査を行い、研究者代表者により解析を行います。

- ・ 患者情報：年齢・性別・病名・良い方の眼の矯正視力・両眼の視野・身体障害者手帳（視覚障害）の有無および等級
- ・ 紹介もしくは選定した拡大読書器の種類（据え置き型、中間型、携帯型）
- ・ 拡大読書器の使用目的
- ・ 拡大読書器を選定・紹介した際の患者さんの様子
- ・ 実際に日常生活用具で申請もしくは購入の有無
 - 購入時には購入機種、申請もしくは購入しなかった場合はその理由
- ・ 他に紹介もしくは選定した補助具の有無とその種類
- ・ その他（購入後の使用状況、特記事項など）

7. 個人情報の取り扱い

個人情報は、カルテの整理簿から、住所、氏名、生年月日を削り、代わりに新しく符号をつけ、研究責任者が管理し、個人情報の漏洩を防止します。研究に利用する情報は、患者さん個人が特定されないようにした上で、パスワードを付したメールで研究代表機関に送付します。この研究で得られたデータは、論文等の発表後 10 年間保管します。保管期間終了後、情報は復元できない方法で消去・廃棄することで、個人情報が外部に漏れないように対処します。この研究への参加の拒否は自由です。拒否された場合は、その時点までに得られたデータを、同様の措置で廃棄します。研究への参加を拒否される場合は、下記問い合わせ先にご連絡ください。この研究から対象外

とさせていただきます。

8. 問い合わせ先

産業医科大学医学部眼科学講座 講師 松下 五佳

福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘 1-1 電話番号 093-691-7261

9. その他

研究への参加に対する直接的な利益はありません。また、費用の負担や謝礼もありません。この研究は講座研究費で行われ、一切の利益相反はなく、産業医科大学利益相反委員会の承認を得ており、公正性を保ちます。